

事業所名 **グループホーム 青い鳥 2**

日付 **平成18年3月31日**

評価機関名 **特定非営利活動法人
高齢者・障害者生活支援センター**

評価調査員 ① **介護支援専門員・介護福祉士**
② **ホームヘルパー1級**

自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)

評価項目内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)

事業者のコメントを見る
(評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります) ※

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		○

記述項目 **グループホームとしてめざしているものは何か。**

地域密着型(住宅地内)を目指したグループホームの具体化を目指し、「利用者スタッフ、寄り添って共に生きるという姿勢で、それぞれの居場所と役割づくりから、もう一つの我が家として、その人らしい暮らしの場を創ること」を方針としている。

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		○

3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
---	-----------------------	---	--

4	建物の外周や空間の活用		○
---	-------------	--	---

5	場所間違い等の防止策	○	
---	------------	---	--

記述項目 **入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。**

入居者が居室に閉じ込まないよう、ホール内に自然と足が向くよう、暖かみのある(落ち着いて生活できるような)空間づくりに取り組んでいる。

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	

7	個別の記録	○	
---	-------	---	--

8	確実な申し送り・情報伝達	○	
---	--------------	---	--

9	チームケアのための会議	○	
---	-------------	---	--

10	入居者一人ひとりの尊重	○	
----	-------------	---	--

11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
----	---------------------------	---	--

12	入居者のペースの尊重	○	
----	------------	---	--

13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
----	--------------------	---	--

14	一人で行えることへの配慮	○	
----	--------------	---	--

15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
----	---------------------------	---	--

16	食事を楽しむことのできる支援	○	
----	----------------	---	--

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
 1. 代表者が管理者を兼ねており、即断即決で業務を遂行、前向きな姿勢でグループホームの改善にとり組んでいる。
 2. 開設後の落ち着きから、スタッフ間に業務改善への取り組みについて、前向きな姿勢がうかがえる。
 3. 入居者(家族)の経済的負担の軽減を念頭とした利用料(ベッド・タンスは常備)の設定がなされている。

特に改善の余地があると思われる点

1. 事業主(管理者)とスタッフ間の「利用者の情報共有化」並びに「業務分担」について、検討の要あり。
2. 地域密着型の観点から「グループホームと地域との連携」、利用者の家族との情報共有化の観点からの「家族会の開催」が望まれる。(4月からは運営推進会議)
3. グループホーム建物の周囲の環境設備を早急に改善してほしい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		○
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		○
30	家族の訪問支援		○

記述項目 **一人の力と経験の尊重やプライバシー保護の為に取り組んでいるものは何か。**

入居者一人一人から、昔の話を聞くことにより、その方の生活体験を把握し、そうした一つ一つの積み重ねにより、「入居者の尊厳とプライバシーの保護」に取り組んでいる。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		○

32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
----	-------------------	---	--

33	家族への日常の様子に関する情報提供		○
----	-------------------	--	---

34	地域との連携と交流促進	○	
----	-------------	---	--

35	ホーム機能の地域への還元		○
----	--------------	--	---

記述項目 **サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。**

管理者・スタッフ間の情報の共有化に努め、特に来年度(平成18年度)はスタッフの接遇研修を行うとともに、積極的に介護保険に係わる研修に参加、レベルアップを目指すことに取り組む、との事である。

(青い鳥)と(青い鳥2)の連携した運営体制がとられている。